

# グローバルヘルス教育における挑戦

## －災害看護の知の可視化－

藤田 さやか<sup>1)</sup>

Sayaka Fujita<sup>1)</sup>

### I. グローバル事象としての災害と看護の役割

現在、世界各地でのグローバル化による人口移動の加速や、自然災害の増加が“持続可能な開発”の障害となっている。日本は地理的・気候的特徴から、自然災害の発生リスクが高い。また、昨今の災害の傾向は、東北地方太平洋沖地震(2011)、熊本地震(2016)、西日本水害(2018)、Covid-19パンデミック禍での令和2年7月豪雨(2020)に見るように、災害が人々の生活や健康に与える影響は多発化・複雑化している。そのため、災害に対する脆弱性を減らし、被害を軽減していくことが国際社会の重要課題となっている。さらに、将来発生が予測される「南海トラフ及び首都直下地震」、激甚化する気象災害、そして感染症パンデミック時の看護職への期待は高まっていると言える。

災害時における看護の役割には、①健康上の問題を持つことになった被災者の救命と疾病の治癒促進への援助・療養環境の整備、②生活環境を整備し健康の保持に導く、③生活の援助活動、④健康障害による苦痛緩和、⑤自立的復興の支援、⑥平時の防災力を備える支援、の6つの視点が網羅される必要がある<sup>1)</sup>。災害時に看護が展開される場合は、応急救護所や病院にとどまらず、避難所、仮設住宅、地域と多様である。さらに、すべての発達段階にある人や様々な疾患を抱えている人を対象とすることから、領域横断的思考が必要となる。

### II. 災害看護教育の現状と課題

社会において看護に期待される役割が拡大し、看護の対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造する能力が求められるようになった。それに伴う看護学モデル・コア・カリキュラムが策定され<sup>2)</sup>、看護基礎教育における教育方法として、周知のように知識伝達型の授業形態からアクティブラーニングへの転換が求められている<sup>3)</sup>。しかし、災害看護領域の科目においては、災害看護活動経験をもつ専任教員の希少さから、オムニバス形態や非常勤対応である場合が多い。また、災害看護活動の経験のない教員が担当する講義・演習の教育内容や方法を模索していること、実践力を高めるための研修の機会が少な

---

1) 姫路大学大学院 看護学研究科

いことなどが課題であり<sup>4)</sup>、他の領域に比べると発展途上にある。“災害看護専門家の経験知の可視化”のため、実践・教育・研究能力をバランスよく培い社会に還元していく人材として、災害看護グローバルリーダーの養成が2014年から始まった。筆者はその1期生としてプログラムを修了し、少なからずプログラム関係者の期待を背負い、動向を着目されつつ大学教育に携わっている。

### Ⅲ．災害看護教育における挑戦

災害看護は、保健師助産師看護師養成所指定規則の第4次改正で統合分野に位置付けられ、「専門分野Ⅰ・Ⅱ」⇒「統合分野」の順で学びがなされてきた内容が、第5次改正では「専門分野」に1本化された。この変革で、各分野を双方向的に行き来しながらの創造的な学習の可能性が高まったと言える。また、COVID-19禍など社会的状況を踏まえて、従来の対面型の授業形式にとらわれず、効果的に遠隔やオンデマンド・ハイブリッド型の授業形態を実施していく、スタイルの転換が求められている。

2020年度、世界的に流行し始めたCOVID-19拡大予防対策のため、急遽、統合実習を遠隔演習に切り替えて実施した。準備した演習は、災害後の避難所における支援をテーマとするものである。地域アセスメントを実施したのち、避難所に避難してくる被災者の特性や背景に応じた支援について検討させた。その後、避難所のレイアウトについてグループワークで検討し、最終日に避難所運営シミュレーションを実施した。避難所運営には、地域看護、対象別看護、異文化ケア、他職種連携など多様な視点が必要であり、これまで各論で学び修得した知識と技術を統合する演習が展開できたと考える。演習プログラムは優良事例として学会シンポジウム<sup>5)</sup>でも報告した。当時は、緊急事態宣言発令による混乱期で、教員のオンライン教育コンテンツの作成および提供技術の差があった。他の領域と連携して、このプログラムを提供することができれば、教員の負担の軽減と学生の満足度の向上につながったのではないかとというのが唯一の心残りである。領域横断教育を牽引していくことが災害看護専門家としての役目と感じ、挑戦し続けたいと考えている。

### 参考文献

- 1) 山本あい子：災害看護学教育と意識の災害モードへの切り替え, 看護研究, 32 (3), 72-74, 1999.
- 2) 文部科学省 (2017). 看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の習得を目指した学修目標～, 大学における看護系人材養成のあり方に関する検討会.  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/1397885.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/1397885.htm). 2022年9月1日閲覧.
- 3) 一般社団法人日本看護系大学協議会事務局 (2018). 看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標. <https://www.janpu.or.jp/file/corecompetency.pdf>. 2022年9月1日閲覧.
- 4) 高田まり子, 堀内照子, 三浦まゆみ：東日本大震災後の東北6県の看護師養成機関における災害看護教育の考え方と実施上の課題. 日本看護教育学会誌, 25 (2), 83-92, 2015.
- 5) 第5回日本国際看護学会教育活動・研修委員会企画シンポジウム, Journal of Japanese Society for International Nursing, 5 (1), 53, 2021.